

太鼓たたいて連帯

企業やチームの連帯感を高め、コミュニケーションを円滑にする効果があるとして、世界各国で多くの企業に採用されている手法「インタラクティブ(双方方向の)・ドラミング」を日本でも認知してもらおうと、「ドラムカフェ・インターナショナル」(南アフリカ)の日本現地法人「ドラムカフェ・ジャパン」(仙台市若林区、星山真理子・最高経営責任者(CEO))が本格的な活動を始めている。

西アフリカ地域伝統の

ヤギの革で作った太鼓「ジェンベ」を使い、参加者が一緒に太鼓をたたく。南アフリカでは人種差別政策アパルトヘイト撤廃後に民族間の壁を埋めるのに役立ったという。

日本国内での認知度は不足しているが、ドラムカフェのパフォーマンスは08年の北京五輪開会式で取り上げられたほか、今年6月に南アフリカで

南アフリカ企業日本法人
仙台で体験会企画



ミュージシャンの指示に従い、息を合わせてドラムをたたく体験パフォーマンス

開催されるサッカーのワールドカップ開会式でも採用される見通し。
星山CEOは「ドラムカフェを通じて日本社会にきずなを取り戻すことに貢献したい」と話しており、企業研修や教育現場への事業展開を進める意向だ。

同社は25日午後7時から青葉区の国際ホテルで、ドラミングを体験してもらうための異業種交流会を企画。参加者を募っている。問い合わせは ☎022・738・9511。

【高橋宗男】

企業の研修や会議に売り込み